

自分らしい生き方、
働き方を探して

秋田と世界のかけ橋へ

仕事とライフワークの両面で自分らしさを発信

秋田キャッスルホテル
宿泊部 フロント課 さおり
キャプテン 千葉 紗央律 さん
1988年生まれ。八郎潟町出身。高校で英語を専攻。エアラインサービス語学専門学校を卒業後、成田空港で3年半勤務。2013年秋、秋田県のDCキャンペーンを機にUターン。同年秋に秋田キャッスルホテルへ入社。

Akita Woman Interview



東日本旅客鉄道株式会社
秋田支社
秋田運輸区車掌 村上 佳子さん
1988年生まれ。大学卒業後、東日本旅客鉄道株式会社秋田支社に入社。職場の先輩と結婚後、24歳で長男を出産。25歳で車掌登用試験を受け合格。7歳と3歳の男の子の母。秋田市在住。

仕事と子育てを両立し、
一つのキャリアモデルをカタチに

得意の英語を生かした接客で応対

屈託のない笑顔と親しみある応対でお客様に接しているのは、秋田キャッスルホテルに勤務して6年目となる千葉紗央律(さおり)さん。現在は、宿泊部フロント課のキャプテンとして、宿泊客へのさまざまな案内業務に日々奮闘しています。

学生時代から英語の習得に励み、成田空港グランドスタッフとしての経験を持つ千葉さんは、「常に、海外からのお客様を迎え入れる姿勢を意識している」と言います。外国人客に自ら声をかけ、何気ない会話で秋田の良さに触れてもらうように心がけていると、今ではお客様の方から進んで質問をしてくるようになるんだとか。「そんな姿勢を新入社員にも見せていけたら」と、フロント課キャプテンとしての目標も語ります。



ある仕事の1日 早番の場合

6:30	起床
7:30	出勤
9:00	入社。当日の宿泊・宴会・レストランなどの予約確認。メールチェック。チェックアウト業務
12:00	昼食
13:00	C-WINGS企画ミーティング
15:00	チェックイン業務
18:00	退社
19:00	ヨガor日本酒イベントなど
22:00	帰宅

る環境に身を置くことで、秋田にいなながらも気持ちを外へ向けられます。アクティブな友人が多いので、私もつられて行動的になります」と話す笑顔からは、仕事とプライベートにメリハリをつけながら楽しんでいる様子がうかがえます。

ライフワークと仕事の好循環

サービス業という答えのない世界で、どうしても期待に応えられない時は「自分なりに解決策を考えたら、すぐ気持ちを切り替えて行動します」。そんな千葉さん曰く、「人とのコミュニケーションで生まれる発見や気づき」は、接客業の醍醐味の一つ。それらを糧にしながら、お客様の求めていたものを形にできた時、そしてお客様の笑顔を見られた時に、やりがいを感じると言います。

今、千葉さんがライフワークとしているのが『日本酒』。2016年には『ミス日本酒 秋田代表』に選出され、さらに「日本酒の魅力をもっと知ってほしい!」という想いから、2017年には『あきた日本酒女子会』を設立、そして社内女性チーム『C-WINGS』では、地元の酒蔵とコラボして日本酒を開発・発売することに。「外国人のお客様をより多くお迎えして、C-WINGSでは新しいことに挑戦しながら、海外にもどんどん日本酒や日本文化をPRしに行きたいですね!」。そう語る千葉さんには、仕事とプライベートの間に良い循環が生まれています。



休日には友人と会ってリフレッシュ!

秋田キャッスルホテルのシフトは1時間単位で決められ、半月前には希望を提出できる仕組み。毎日お風呂にゆっくり浸かるなど体調管理に気を配るかたわら、休日を利用して県内外の友人に会いに行ったりリフレッシュしているとのこと。同業の友人と、ホテルマンとしての悩みやお客様の対応の仕方などを共有していると、今まで考えつかなかった視点が生まれることも。

外国人の友人も多い千葉さん。「自分と違う価値観に触れられ

上司から一言!

宿泊部 フロント課 副支配人 阿部 智宏 さん
当ホテルでは、従業員満足度を高めるためのプロジェクト「ES lab」を中心に、女性目線で問題点を改善するなど、全スタッフが働きやすい環境を目指しています。千葉さんの接客には、やわらかさや誠実さがあり、それがお客様に伝わっています。さらに「日本酒」というアプローチで秋田の魅力を発信し、他の社員にも刺激をあたえる存在です。



子育てとキャリアアップを並走

女性の活躍を推進している鉄道会社の車掌として働く村上佳子さんは、7歳と3歳の男の子のお母さん。最初の配属先の大曲駅で駅員として務めた4年目、長男が1歳の頃に車掌登用試験を受けて無事合格。次男の産休・育休を経て、今年で車掌歴5年目を迎えます。



村上さんが現在担当している路線は14種類のシフトがあり、出勤・退勤時間も日によってさまざま。子育ては、会社の先輩で指令員として勤務するご主人と夫婦で連携するのももちろんのこと、夫の両親の協力がとても大きいと村上さんは言います。「実は義父も同業でしたので、私の仕事に対する義母の理解もあって、本当に助かっています」。2年前には社内に新設された保育所に次男を入所させるなど、家族と会社からの双方のサポートのもと、日々の業務にあたっています。

子供との時間と自分の時間の過ごし方

それでもやはり「勤務が忙しく家族とゆっくり過ごせない時は、自分もいっぱいいっぱいになっていました」と当時を振り返りますが、行事には必ず参加し、極力一緒に過ごす時間をつくって触れ合うようにしているとのこと。「長男が、私が車掌であることを誇りに思っているようなんです」。このことが村上さん自身のモチ



ベーションにもつながっているそうです。
休日のリフレッシュは、お子さんの幼稚園時代から続けているママさんバレーや、リサーチして見つけた場所へ遠出して楽しむグルメ。

上司から一言!

秋田運輸区長 安井 久志 さん
職場環境としては、日頃から話しやすい雰囲気づくりを心がけており、子育てとキャリアアップの両面でサポートやアドバイスができるよう、体制を整えています。村上さんは車掌として5年目を迎えます。その間、育児休暇を取得し業務を離れた時期もありましたが、着実に経験値も増えてきているので、これからは自身の活躍と同時に、新入社員の教育面でも期待しています。



また、音楽を聴くことも好きで「家事をしながら音楽をよく聴きます。大変だと思うときでも、テンションを上げることができるんです」と時間や場所にあった楽しみ方を見つけています。

キャリアモデルになるために

職場内では中堅のポジションとなってきた村上さん。同じ車掌で子供のいる先輩には、子育ての大変さを共有して支えてもらっているそうで、「これまで多くの先輩に支えてもらいました。これからは私が、出産や子育てに悩んでいる後輩の気持ちを聞いてあげたいですね」と語ります。そんな村上さんは、サービス介助士の資格を取得するなど、自身のスキルアップも怠りません。

「車掌としての任務をしっかりと果たしながら、子育ても両立できるという一つのキャリアモデルになれたらと思っています。『村上さんがやっているから私も』と思ってもらえるような、目標となる存在になりたいですね」。高校、大学と柔道部で培った強い精神力で、厳しくも華やかな職業にまい進します。

ある仕事の1日 午後出勤の場合

6:00	起床
7:15	長男を送り出し、次男の保育所の準備
8:00	次男を送迎
9:00	家事
15:00	出勤 乗務(泊まり)
10:00	退勤
13:00	バレーボールへ
16:00	子供のお迎え

